川合の年表

和暦	西暦	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
旧石器時代	3万年前	旧石器の使用	
縄文時代	1万年前		57　倭の奴の国王、後漢の帝より印綬をうける（金印）
			239　邪馬台国の卑弥呼が魏に朝貢
		川合に群集墳がつくられる	593　聖徳太子摂政となる
	645		645　大化の改新
天武 6	677		「加尓評」かにのおこりの木簡（カニの地名の現在までの最古）
和銅 3	710		710　平城京遷都
天平勝宝2	750	川合は曰理郷（ワタリノゴウ）の一部であった	可児郡から卑一人東大寺におくる 752　大仏開眼供養 このころ可児に七郷があった
延暦13	794		794　平安遷都
延喜10	910		910　菅原道真左遷
長和 5	1016		1016　藤原道長摂政となる
建久 3	1192		1192　源頼朝鎌倉に幕府を開く
元弘 3	1333		1333　鎌倉幕府滅亡
建武 3	1338		1338　足利尊氏室町幕府を開く
応仁 1	1467		1467　応仁の乱始まる
天文11	1542		1542　土岐氏斎藤道三により滅亡
天文12	1543		1543　鉄砲伝来
弘治 2	1556		1556　長良川合戦道三戦死
永禄 3	1560		1560　桶狭間の合戦
永禄 8	1565	烏峰城（金山）に森可成入城	1565　信長美濃進攻（鵜沼城・猿啄城・堂洞城落城）
永禄10	1567	大沢治郎左衛門川合へ転住という	1567　信長稲葉山城に入り井之口を岐阜と改めたという
元亀 3	1572		1572　武田信玄東濃へ侵入
天正 4	1576		1576　信長安土城築城
天正10	1582	森氏による東濃平定	1582　本能寺の変
天正12	1584	森長可長久手の戦いで戦死	1584　小牧・長久手の戦い
天正17	1589	美濃国太閤検地実施	1589　美濃太閤検地 1592　秀吉朝鮮出兵
文禄 4	1595	森忠政今渡に新町つくる	
慶長 5	1600	春　森忠政信濃海津城へ移封	1600　関が原の戦い
慶長 6	1601		1601　千村平右衛門久々利に屋敷を構える
慶長 7	1602		1602　御嵩宿開宿
慶長 8	1603		1603　家康江戸幕府を開く
慶長 9	1604		1604　平岡岩見守頼勝一万石余を拝領し徳野に陣屋をかまえる徳野藩）

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
慶長15	1610			1610　美濃国奉行の大久保長安が美濃国の検地を行なう（石見検地）
慶長19	1614			1614　大阪冬の陣
元和 1	1615		川合村土田村他とともに尾張藩領となる。	1615　大阪夏の陣（豊臣氏滅亡）
寛永14	1637			1637　島原の乱
正保 2	1645		川合村の概高は一四九石余（元高は一六八石余）	1645　尾張藩概高の制を定める
慶安 4	1651			1651　平岡岩見守頼資没(徳野藩改易)
寛文 1	1661			1661　塩村でキリシタン検挙
元禄 7	1697		川合村伏見宿の助郷村となる	1697　伏見宿立宿
元禄17	1703		青木天王社再建という	1716　享保の改革はじまる
享保 9	1724		川合村船手形発行願を藩郡奉行に提出	
宝暦 4	1754	庄屋等		1754　郡上宝暦の一揆
宝暦 5	1755	円右衛門		1755　薩摩藩の木曽川治水御手伝普請
明和 4	1767			1767　田沼政治はじまる
明和 7	1770		大旱魃（六月初旬～八月中旬までの日照り）	
天明 1	1781		川合村太田代官所の管轄となる	1781　国奉行所の機構改革。代官の管地駐在による支配となり太田代官所設置
天明 6	1786		冷夏のため凶作（天明の大飢饉）	
天明 7	1787		1787　寛政の改革はじまる	1808　間宮林蔵樺太探険
文化 8	1811	定蔵		1811　幕府異国船打払令を出す
文化12～13	1815～16	清右衛門 1816迄		1815～16　美濃地方大洪水
文政 4	1821	要吉 1824迄	田植時に日照で田植が半分しかできなかった	
文政 6	1823		弘法大師像修理	
文政 7	1824		八月に降雹	
文政 8	1825	里吉		
文政 9	1826	円右衛門	豪雨で錦織綱場の材木流れる厳しい流木調査	
文政10	1827	庄蔵 1831迄	昼四時に発光物体飛来（太鼓大の大きさ）南から南東へ	
文政13	1829		伊勢大神宮へお陰参り川合村も中山道で接待。川合村からも六〇人程伊勢へ参詣	1829　伊勢へのお陰参り流行
天保 3	1832		大旱魃（六月一八日～八月三日雨乞踊）草や松の皮などを食べる	1832～37天保の大飢饉
天保 7	1836	与平 ～37迄	大雪　平地で三尺五寸（一メートル余積雪）	
天保 8	1837	和平	暴風雨で家屋の倒壊八軒	1837　大塩平八郎の乱
天保 9	1838	仲右衛門	幕府巡見様通行川合からも神渕へ人足等出	

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
天保10	1839	久五郎	尾張第一一代藩主斉温没御遺体中山道通過 川合村からも助郷役として人足二五人と馬二頭の割当 藩主斉温の奥方の通行で助郷役に人足三二人出る	1839　蛮社の獄
天保11	1840	仁平		
天保13	1842	伊兵衛 ～44迄	伊勢神宮御神木北川合村に泊り。近村から獅子一四頭と太鼓等を奉納。若者の喧嘩となり大騒動となる	
天保15	1844		旱魃（六月一二日～七月二七日の日照り）	
弘化２	1845	伝兵衛		
弘化３	1846	伊兵衛・ 久五郎・ 太兵衛・ 仲右衛門		1846　欧米諸国開国を勧める
弘化４	1847	仁平 ～49迄	疱瘡流行　郷蔵火災	
嘉永１	1848		旱魃（六月一五日～七月二五日日照り）雨乞を何度も挙行	1848　太田宿大火一五〇軒も焼失
嘉永３	1850	仁兵衛		
嘉永４	1851	仲右衛門	川合村の戸数五二戸・人口二二一人	1851　ペリー来航
安政５	1858			1858　久々利大火
万延１	1860			1860　桜田門外の変
文久１	1861			1861　和宮降嫁
文久３	1863			1863　薩英戦争
元治１	1864		水戸天狗党中山道通行	1864　水戸天狗党通行 第一次長州征伐
慶応１	1865			1865　第二次長州征伐開始
慶応３	1867			1867　将軍慶喜大政奉還 王政復古の大号令発せられる
明治１	1868			1868　鳥羽伏見の戦い 東征軍御嵩宿営
明治２	1869		川合の戸数五六戸・人口二一五人	1869　版籍奉還
明治３	1870	渡辺佐兵衛		1870　平民の苗字使用認める
明治４	1871			1871　岐阜県設置 郵便創業の布告
明治５	1872	渡辺佐兵衛	川合村は第一一大区で今渡の野市場・金屋や上下恵土とともに第一小区（旧一四か村とともに）	1872　庄屋等の呼称を廃止し戸長を設置 学制公布 大区・小区制とする 可児郡は土岐郡と第一一大 太陽暦の採用 徴兵令の布告 今渡に郵便取扱所開設
明治６	1873		今渡に川合・野市場・金屋の三か村で検進学校開校	1873　伏見に取締所（警察）を設置
明治７	1874		川合・野市場・金屋の三か村合併し今渡村となる 地租改正で土地丈量はじまる	

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
明治９	1876			1876 御嵩に裁判支庁・警察出張所設置 飛騨三郡が岐阜県に合併
明治10	1877			1877 西南戦争 地租二・五パセントに軽減
明治12	1879		最初の村会議員選挙実施	1879 御嵩に郡役所設置 大小区制廃止町村制に復活
明治13	1880			1880 今渡に巡査交番所設置
明治15	1882		伊勢神宮御神木新村湊へ出迎、古井川合で泊まる	1882 板垣退助岐阜で遭難 今渡に今渡銀行設立
明治17	1884		今渡村は下恵土村・土田村とともに連合役場を今渡に置く	1884 戸長役場を廃止 美濃加茂事件が起こる
明治18	1885			1885 今渡に丹羽製糸工場開設
明治20	1887		七野新田開墾に着手	
明治22	1889		今渡村と下恵土村が合併し今渡村となる	1889 大日本帝国憲法発布
明治24	1891		濃尾大震災で川合も倒半壊一六戸	1891 濃尾大震災
明治26	1893		旱魃（八月二六日～五二日間）	
明治27	1894		旱魃（六月二二日～四〇日間）	1894 日清戦争勃発
明治28	1895			1895 日清戦争終り下関条約締結
明治29	1896			1896 中学校東濃分校御嵩に開校
明治30	1897		川合東野開墾着手	1897 郡制施行　郡会議員選挙
明治31	1898		川合野で可児郡第一回連合運動会開催	1898 東濃中学校独立
明治32	1899		今渡村が今渡町となる	
明治33	1900			1900 広見に四か町村組合立中華高等小学校開校 中央線名古屋＝多治見開通
明治34	1901			1901 今渡の大火二四棟焼失 今渡に公設消防組発足 太田渡岡田式渡船となり渡賃無料となる
明治35	1902			1902 下恵土に公設消防組発足
明治37	1904			1904 日露戦争勃発
明治38	1905			1905 日露戦争終決 ポーツマス条約締結
明治39	1906	大沢増五郎		
明治40	1907	渡辺兼太郎	青木神社祭礼新暦四月一四～一五日と変更	
明治41	1908			1908 今渡・下恵土両小学校合併 岐阜長森に歩兵六八連隊設営される
明治42	1909			1909 可児郡青年会設立
明治44	1911	渡辺初治郎	川合組の行事は旧暦を廃し新暦と決定	1911 今渡小学校完成すると台風で倒壊
明治45	1912	大沢秀五郎	渡辺加源治今渡町長となる（大正三年迄）	1912 加茂郡立加茂農林学校開校

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
大正 2	1913	林春之助	諸事に倹約することとなる	1913 今渡町消防組発足
大正 3	1914	渡辺初治郎		1914 第一次世界大戦勃発
大正 4	1915	渡辺加源二	可搬ポンプの新設	
大正 5	1916	渡辺加源二	私設川合消防組の設置	
大正 6	1917	林春之助	今渡消防組第三部と改称	1917 今渡尋常高等小学校となる
大正 7	1918	渡辺秋太郎	渡辺加源治今渡町長となる（大正一一年迄）	1918 東濃鉄道広見＝多治見開通 米騒動起こる スペイン風邪大流行
大正 8	1919	大沢竹吉		1919 中華高等小学校廃止
大正 9	1920	林春三郎		1920 東濃鉄道広見＝御嵩開通 第一回国勢調査
大正10	1921	大沢増五郎	電灯設置工事はじまる	1921 可児郡立実業学校開校 高山線岐阜＝美濃太田開通
大正11	1922	林　兼一	電灯点灯式挙行 大旱魃	
大正12	1923	渡辺加源二		1923 関東大震災 可児実業学校県立となる 郡制廃止となる
大正13	1924	大沢秀五郎		1924 広見町制となる
大正14	1925	大沢秀五郎		1925 名鉄犬山口＝今渡電車開通
大正15	1926	大沢秀五郎		
昭和 2	1927	渡辺信太郎		1927 太田橋流路部分完成
昭和 3	1928	大沢竹吉		1928 太多線開通
昭和 4	1929	大沢竹吉	農休は鎌止とする	1929 名鉄今渡＝広見開通
昭和 5	1930	渡辺基次	お日待を鎌止とする	
昭和 6	1931	山口鋤雄	経済不況のため青木神社の祭典を縮小	1931 満州事変勃発
昭和 7	1932	山口鋤雄		1932 五・一五事件起こる
昭和 8	1933	渡辺栄造		1933 国際連盟脱退
昭和 9	1934	渡辺栄造		
昭和10	1935	渡辺正祐		1935 高山線全線開通
昭和11	1936	渡辺正祐		1936 二・二六事件
昭和12	1937	横井光治	青木神社新築 大沢森雄今渡町長となる（昭和二二年迄）	1937 日中事変
昭和13	1938	横井光治		1938 国家総動員法公布
昭和14	1939	横井光治	今渡ダム完成	
昭和15	1940	横井光治		1940 紀元二六〇〇年奉祝
昭和16	1941	大沢鋲市		1941 太平洋戦争勃発
昭和17	1942	大沢鋲市		
昭和18	1943	杉本勝三郎		1943 萱場工業土田へ進出
昭和19	1944	杉本勝三郎		1944 学徒動員で今渡国民学校高等科二年萱場工業へ

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
昭和20	1945	林行之助		1945 下恵土に爆弾投下 連合国に無条件降伏
昭和21	1946	林行之助		1946 日本国憲法公布
昭和22	1947	山口森一	農協川合支部建設	1947 六三制発足
昭和23	1948	山口森一		
昭和24	1949	渡辺栄造	連続放火事件発生	1949 湯川秀樹日本人初のノーベル賞受賞
昭和25	1950	渡辺栄造		1950 朝鮮戦争勃発
昭和26	1951	大沢春吉		1951 サンフランシスコ講和条約
昭和27	1952	大沢春吉		1952 蘇南中学校開校
昭和28	1953	七野宮富士		
昭和29	1954	七野宮富士	川合に殉国戦士の碑建立	
昭和30	1955	七野宮富士		1955 可児町誕生（七か町村の合併）
昭和31	1956	七野宮富士		1956 日本国際連合に加盟
昭和32	1957	渡辺雍三郎		1957 ソ連人工衛星打ち上げ
昭和33	1958	渡辺雍三郎		1958 インスタントラーメン考案
昭和34	1959	渡辺柳市	伊勢湾台風	
昭和35	1960	林　四郎		1960 姫治村分村合併 今渡農協有線放送開始
昭和36	1961	曽我十郎	川合プール完成	1961 愛知用水完成
昭和37	1962	渡辺弥興市	稲荷神社移転	
昭和38	1963	小川清男	路線バス開通	1963 可児工業高校開校
昭和39	1964	渡辺武雄	九頭龍ダム水没関係者４戸転入	1964 東京オリンピック開催
昭和40	1965	渡辺重夫	川合区六五周年記念式典挙行	1965 岐阜国体開催
昭和41	1966	渡辺勘市		
昭和42	1967	杉本勝郎		
昭和43	1968	大沢釬市		1968 飛騨川バス転落事故
昭和44	1969	林惣兵衛	川合青木会（老人会）結成	1969 国宇宙船アポロ月面着陸 中濃大橋完成
昭和45	1970	山口伝一	農協川合支所新築移転 川合稚蚕センター開設	1970 大阪万国博開催 名鉄広見線複線化完成
昭和46	1971	渡辺市郎	東野町営住宅建築	
昭和47	1972	七野辰男		1972 沖縄本土復帰
昭和48	1973	大沢近司		1973 可児農協カントリーエレベーター開設
昭和49	1974	渡辺輝昭		1974 可児工業団地完成
昭和50	1975	山口耕逸	第二青木会結成 名鉄研修センター完成	
昭和51	1976	渡辺正雄	川合大橋完成 川合の渡し廃止	

和暦	西暦	区長等	川合の歴史的事項	国・県・郡・市事項
昭和52	1977	西川多賀男	南組を分割し西組を設置	1977 新東京空港（成田）開港
昭和53	1978	渡辺　勲	上水道布設	1978 福祉センター開館
昭和54	1979	大沢勝義	かわい幼稚園開園 可茂公設市場開設	1979 可児町人口五万人突破
昭和55	1980	大沢　保		1980 可児高等学校開校
昭和56	1981	安田　清	川合自警団動力ポンプ積載車購入	1981 可児町人口六万人突破 防災無線設置
昭和57	1982	林　行夫		1982 可児市制施行
昭和58	1983	大沢文男	川合公民館（現区民館）竣工式	1983 今渡北小学校開校 新大田橋開通
昭和59	1984	熊沢信義	川合東クラブ竣工式	
昭和60	1985	大沢照夫		1985 可児警察署開署 可児市人口七万人突破
昭和61	1986	渡辺義美	川合区の年度が国の会計年度と一緒になる	
昭和62	1987	大沢和明		1987 鳩吹山火災 市花いっぱい運動はじめる
昭和63	1988	桂川喜八郎		1988 岐阜未来博
平成1	1989	林喜代彦		1989 ゆとりピア開館
平成2	1990	七野　寿	川合区全員総会を総代会で実施	
平成3	1991	渡辺良平	川合夏まつり一本化	1991 川合北部土地区画整理事業に伴い発掘調査
平成4	1992	大沢和好	プール解体	
平成5	1993	渡辺孝道	農協川合支所新築	1993 ケーブルテレビ開局
平成6	1994	林　貞男	川合古墳夏まつり始まる 川合西クラブ新築	1994 水不足深刻化 山田豊可児市長に初当選 冷害で米不足
平成7	1995	森田　孝		1995 花フエスターぎふ開催
平成8	1996	林　嘉美	川合北部土地区画整理事業竣工	
平成9	1997	渡辺　智	川合歴史年表展開催	
平成10	1998	内藤正弘	川合公民館開館	
平成11	1999	渡辺洋治		
平成12	2000	大町治雄		
平成13	2001	木村　武	川合区史「川合　いにしえからのあゆみ」刊行	

索引　【川合ーいにしえのあゆみー】平成13年12月15日発行